

「 桜島ふん火実験 」

鹿児島県 霧島市立国分小学校 5年 中馬 剛ちゅうま ゴう

ぼくが住んでいる霧島市の国分は、桜島も見えるし、霧島の山も近いです。霧島の火山情報が活発になると、大じょうぶかなと思います。五月に宿泊学習があり、いつもは霧島の池めぐりをするけれど、今年は危ないからとコースが変こうになったくらいです。ふん火したら石が落ちてきたり、土砂くずれが起きたりと想像しただけでもこわくなります。

七月二十六日、ぼくはあるニュースを見ました。そのあるニュースとは、桜島が万が一ふん火したらどうなるかを実験していたのです。ぼくは思わずどうなるのだろうと前のめりになってテレビを見ました。

まず、桜島がふん火したら、小石がいっぱい飛んできます。ぼくたちの霧島市は一メートルほど小石でうまるそうです。今から百四年前の大正三年に起きた桜島の大正ふん火では、静岡県まで小石が飛んだそうです。そのときに亡くなった方々も大勢いたそうです。

ニュースの続きを見てみると、一番大変なことは、家に小石が飛んできて、いろいろな災害が起こるそうです。土砂災害も起きるそうです。そうなったら救急車や水を配る車なども、道路が小石で一メートルほどうまったり、土砂があつたりであまり進みません。だから、自分たちにできることとして、第一には

「安全な場所へひなんしてください。」

とせん門家が言っていました。ぼくは、そうなったら家族といっしょに、体育館にひなんしようと思います。

次に、せん門家が小石を置き二十五メートルほどのコースを作っていました。そこにいろいろな車を走らせていました。まず救急車を走らせると、五メートルほどでタイヤが小石にうまってしまいました。水を配る車も同じく五メートルほどでタイヤがうまってしまいました。急な坂でもぐんぐん登っていく消防車でも十メートルほどでタイヤがうまり、動けません。ふ通車では六メートルでした。ぼくたちがいつも使っている車で六メートルしか進まないのであれば、災害時は高れい者も歩かないといけないと思います。もし、そうなって高れい者が困っていたら、荷物などを持って助けたいと思います。

今、桜島だけではなくて、日本各地でいろいろな災害が起こっています。七月にあった中国地方での大雨災害では、ひ害にあった人たちが、

「水がほしい。」

「ぼうしがほしい。」

と言っていました。とても大変だと思います。その人たちのために祖母は、寄付をしていました。

いつ、自分たちの住んでいる霧島市に災害が起こるか分かりません。なので、家族で話をしたり、災害に備える準備を考えたりしようと思います。また、霧島市でこのような災害が起きたら、困っている人の役に立つボランティア活動に進んで取り組みたいです。